



ASAHIYAMA ZOO 50th ANNIVERSARY 1967-2017

夏期開園の開園時間は 9:30~17:15(入園は 16:00 まで)  
※とりの村は改修工事のため 2018年4月8日まで見学することができません

旭山動物園だより

発行所  
旭川市旭山動物園  
動物図書館  
☎ 36-1104



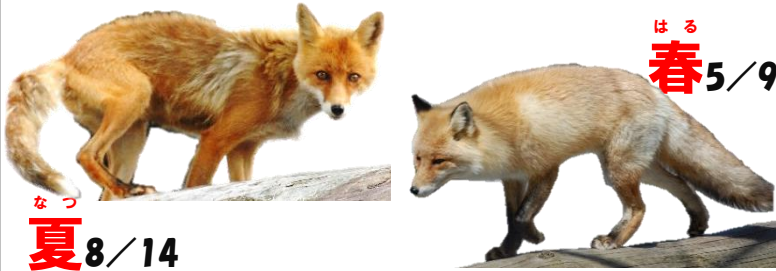
夏 8/14

春 5/14

繁殖期を終えた

オシドリのオスが地味すぎる!

春はあんなに派手で美しかったのに、繁殖期を終えたオシドリのオスは一気に地味な羽になりました。北海道産動物舎では、オスとメスの1ペアを展示していますが、オスがメスと同じに見えるほど違いがわかりづらいです。オスはメスよりくちばしが赤いので、比べてみてくださいね。今が一番地味な状態です。同じく繁殖期を終えたクジャクのオスも長い飾り羽が抜け落ちました。観察しに来てくださいね。※上の写真は同じ個体です

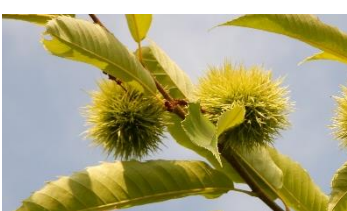


夏 8/14

春 5/9

夏毛でほっそり見えるキタキツネ

毛が換わるまでは、ふわふわでふさふさな毛で尻尾も太く見えたのですが、夏のキタキツネはまるで痩せてしまったと思うくらい毛が短く変わりました。同じ北方系のホッキョクキツネは毛の質だけでなく、色も大きく変わっています(冬は白、夏は灰褐色)。ちなみに、エゾヒグマの夏毛もキタキツネと同じように毛が短くなって、なんだか小さく見えますよ。



実をつけている栗の木

園内にある植物は秋への準備です。写真は栗の木(8/21撮影)。まだ小さく緑色をしています、トゲトゲのイガの実をつけていますよ。

動物園の仕事に携わって



【上】動物園スタッフのみなさんと一緒に(右から2番目が私です)【左】くじや舎のインドクジャク(本人撮影)

夢だった旭山動物園で働くこと、今回、実習生として業務に携わることができました。ここでは、飼育以外にも大切な仕事がたくさんあります。「命を伝える」という使命をもって様々な活動を行う職員さんの隣りで、命の凄さを感じました。熱意をもって働く旭山動物園、ここで働く人たちが大好きになりました。

※このコラムは8月中に入園をした実習生の中西菜瑠さん(関西学院大3年)が担当しました

これからのイベント	
9月	■9月のワンポイントガイド 10(日)、17(日)、18(祝)、23(祝)、24(日)
	■絵本の読み聞かせ(動物図書館) 9/9(土)
	■第49回旭川市旭山動物園・児童動物園コンクール表彰式 9/23(祝)
10月	■10月のワンポイントガイド 1(日)、8(日)、9(祝)、15(日)、22(日)、29(日)
	■絵本の読み聞かせ(動物図書館) 10/14(土)

春・夏・秋・冬…。四つの季節のうちの半分が、もう終わろうとしています!

春に抜け落ちたツノが秋には立派に完成するエゾシカのオス



春 4/17

エゾシカの夏は、毛が鹿の子模様になるだけではありません。春に抜け落ちたオスのツノが秋の繁殖期に向けて立派に完成していくのです。これからは袋角の皮膚がむけ、白く硬いツノがあらわになります。オスもメスもツノがはえるトナカイも、そろそろツノが完成しそうです。※春と夏の写真の個体は異なります



夏 8/14

の姿はもうすぐ終わります。

動物たちは大丈夫でしょうか? 繁殖期が終わったオシドリのオス、夏仕様に毛が短くなったキタキツネなど、旭山の動物たちの夏の姿はもうすぐ終わります。

エゾリスの夏毛は、耳に注目!

北海道産動物舎や、東門へ向かう坂(ゆっくりロード)で展示しているエゾリス。体の毛の質も変わっていますが、大きな違いは耳です。毛が換わる前は、エゾリスの特徴である、寒さ防止の長い毛が生えていますが、夏にはありません。エゾリスの暑さ対策ですね。



夏 8/14



春 4/4

「命」のお知らせ

旭山動物園で誕生・死亡した動物をお知らせします。

7/24 ハムスターが生まれました

第1こども牧場で飼育しているハムスターに7/24、赤ちゃんが生まれました。8月の初めに目が開き出し、8/12ごろに離乳し、母親と離して飼育しています。ハムスターは生まれて10日目ぐらいから、親と同じエサを食べ、とても成長が早い動物です。



8/13撮影



ライブカメラの様子 8/13



ルナ(5歳)

8/12・13にアムールヒョウが出産しました!

アムールヒョウの「ルナ」が8/12の午前9:38に1頭、8/13の午前3:00頃に1頭の子どもを出産しました。初産ですが授乳もしており、体をなめるなど、しっかり子育てをしています。子どもの性別はまだ不明です。しばらくは「もうじゅう館」に設置されたライブカメラで母子の様子を見守ってください



アムールヒョウの産室ライブカメラは、エゾヒグマとアムールトラの放飼場の間にあります

7/27 ウンピョウの

「プータオ」が死亡しました

小獣舎で飼育していたウンピョウの「プータオ」(メス・15歳)が7/27、死亡しました。「プータオ」は、2004(平成16)年によこはま動物園ズーラシアから来園した個体で、2006(平成18)年にオスが亡くなってからは1頭で飼育していました。絶滅危惧種のウンピョウはユキヒョウなどと同様、棲みかである森林の減少だけでなく、毛皮目的の密猟により個体数が著しく減っている動物です。

